

# 議案 1 ESD-J 2015 年度事業報告 (案)

## I. 概要

ESD のセカンドステージの初年である 2015 年は、ESD-J にとってまさに転換期であった。6 月の総会では、ESD-J が長年働きかけてきた“地域の ESD を支援する官民協働の ESD 推進プラットフォーム”である「ESD 活動支援センター(仮称)(以下 ESD センター)」の設立にむけた政府の動きをふまえ、この動きに民間側から参画していくことを確認した。また ESD 推進のための政策形成に市民の声を反映させることを柱とした組織として主たる活動を絞り込み、理事による業務分担を進め、事務局機能のスリム化を実現していくことを目指すこととした。

事業としては、これまでの ESD-J のネットワークや取り組みの成果を活かし、

1. 官民協働による ESD 支援の仕組みづくりへの参画
2. 市民による ESD 推進の評価事業
3. 官民協働による ESD 支援の仕組みづくりへの参画
4. ANNE 事業など国際ネットワークに関する事業

に取り組んだ。

組織体制としては、10 月以降、常勤スタッフを置く体制から、非常勤の事務局とネットワーク型のプロジェクト実施体制へと移行させようとしているが、12 月より「ESD センター」の運営業務を受託することとなり、あらためて組織の基盤を強化する必要性に迫られている。また総会での承認を受け、団体名を「持続可能な開発のための教育推進会議」と変更した。

## II. 事業活動

### 1. 官民協働による ESD 支援の仕組みづくりへの参画

#### 【目標】

政府によって設立準備が進められている「ESD センター(仮称)」が、地域の実践者の声を反映した政策形成、および官民協働による ESD 支援のためのプラットフォームとして設立されることを目指す。

#### 【事業内容】

##### 1) ESD 活動支援センターの企画・準備への参画

2014 年度に引き続き、ESD-J では官民協働による「ESD 活動支援センター」の設置を環境省、文部科学省、国会議員、ESD 実践者等多方面に働きかけた。また、多様な主体との対話を通して、全国センター、地方ブロックのセンター、地域の ESD 推進拠点といった重層的な ESD 支援のためのネットワークが必要、というビジョンを描くことができた。

##### 2) ESD 活動支援センターの運営業務への参画

更に、10 月に公募された「ESD 活動支援センター運営等業務」に(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)との共同運営体制で企画提案し、受託が決定した。12 月 1 日より受託業務開始、2016 年度早々に開設する「ESD センター」の準備業務に

携わり、オフィス環境の整備、ウェブサイトの制作、パンフレットの制作、2016年度の事業計画作成などに取り組んだ。事務局として、ESD-Jから2名、ACCUから1名のスタッフを派遣して業務を行っている。

#### 【成果】

- ・環境省、文部科学省の共同提案のもと、官民協働の「ESD センター」が設立された。
- ・2015年度から19年度までの4年4か月、複数年度の契約で「ESD センター」の運営業務を受託することができた。
- ・「ESD センター」の運営業務を、ACCU と共同運営という形で行うことで、制度の縦割りを超えるネットワーク形成の第一歩を踏み出すことができた。

#### 【評価】

長年提案してきた官民協働のプラットフォームが、ようやく形になったことは、これまでの運動の大きな成果と言える。また、その基盤となる全国センター・地域拠点の重層的なネットワーク構想を関係者と討議し、そのビジョンを共有出来た事は今後のESD推進に大きな意味合いを持つことになった。課題は、このネットワークをどのように実現していくのか、中期的な目標を描き、共有することと、その実現に向けた具体的な方策を早急に検討することである。また、このネットワークをESD-J 会員とともにどのように形成していくのかも含めて、検討していきたい。

## 2. 市民によるESD推進の評価事業

#### 【目標】

ESD-J 発足からESDの10年終了までの12年間、展開してきた政策提言や支援事業について情報整理を行い、その実現状況や成果、残された課題などを市民社会の視点から整理・評価し、それらを公表することで、2015年以降のESD推進政策の形成および官民協働によるESD実施に役立てられることを目指す。（地球環境基金助成プロジェクト）

#### 【事業内容】

- 1) 「ESD 世界会議からセカンドステージへ 公開ワークショップ」開催  
日時 4月26日 10:30~17:00 場所 立教大学太刀川記念館  
参加者 100名  
2015年以降のESDの方向性を共有するためのワークショップ。
- 2) ESD-Jのwebサイトのリニューアル  
過去12年間に取組んできた事業の成果物、パンフレットや報告書、テキストなどを整理し、アーカイブとして公開した。
- 3) 『市民社会からの挑戦－ESD推進12年間の軌跡』の発行（2016年3月）  
ESD-Jの主だった事業を14件選び、事業担当理事及びスタッフの自己評価、および関係者による半・外部評価の原稿で構成。（自己評価：14件、関係者評価：36件）ESD-J会員を対象としたウェブアンケートの結果も掲載している。また、外部評価のための座談会を開催（11月8日@立教大学）、12年間のステークホルダーの広がりを樹形図にまとめた。初版100部を発行、執筆者、関係者に配布した。

#### 【成果】

- ・ESD ユネスコ世界会議後、ESD 実践者等が集まり、ESD ユネスコ世界会議の成果を

共有するとともに、今後ナショナルで、ローカルすべきことを協議し、さらに効果的な事業展開を図るなどの共通の目標を見いだした。

- ・この10年間で培ったノウハウやネットワークをさらに有効に活用し、創りだしてきた関係性を豊かにするとともに、さらなる関係性の深み、広がりを創出することの重要性を共有した。
- ・12年間の活動をまとめるにあたり、多くの方に執筆いただき、ふりかえることで築いた関係性の広がりを文章及び図で可視化することができた。
- ・今後さらにESD事業を発展させるためのツールとしての冊子を制作することができた。

#### 【評価】

今後のESD活動の展開を考える2つの事業を実施した。一つは、ESDユネスコ会議の成果を共有したことで、これまでの実践者のパワーアップ、また今後取り組みたいと考えている方との出会いを可能にした。さらに、多様なセクターと協議できたことは、次の新しいナショナル、ローカルでの取組の方針を生み出す貴重な機会となった。

もう一つの冊子制作においては、12年間の活動を振り返ることで、できたこと、できてこなかったことが内部・外部の目を通して明らかになり、今後できたことをいかに活かし、できてこなかったこといかに取り組むかを執筆者とともに明示することができた。この培った関係性、場やツールを活かして、多様な対話の機会を設けて、相互参照をしながら、発想の転換、学びあいの充実を図り、市民によるESD連帯の強化を図り、真の市民社会の形成を目指す。

### 3. ESDコーディネーター育成に関する事業

#### 【目標】

地方自治体やさまざまな機関におけるコーディネーター研修事業に協力し、ESDの視点をもったコーディネーターの育成とネットワーク形成を促進する役割を果たす。

#### 【事業内容】

- ・岡山市が市の職員とNPO等を対象としたESDコーディネーター研修を開催(ESD-Jが受託：担当・池田満之)

#### 【成果】

- ・岡山市(岡山ESD推進協議会)の委託を受けて、行政職員、市民団体、企業等でコーディネーターの役割を担っている人、28名に対して、ESDコーディネーター研修を協働で行うことができた。
- ・研修はワークショップの運営に長けたスタッフ陣を配して、3日の集合研修とOJT(On the Job Training：実践現場で必要な知識や技術を習得するための研修)を取り入れたワークショップ形式の研修を実施することができた。
- ・研修のフォローアップとして、受講生が講師に個別に相談できる機会(個別相談会)を2日間設けたことで、充実した研修成果物の作成や一人一人のスキルアップに大きく貢献することができた。
- ・研修では、参加者同士の学び合いを促進し、分野やセクターを超えたネットワークの強化につながるように配慮したが、研修後、分野やセクターを超えたつながりや動きも見えだしてきた。今後もしっかりフォローアップしていくことで、この動きを促進していくことが望まれる。

#### 【評価】

岡山市（岡山 ESD 推進協議会）では、これまでも公民館職員等に対しては、毎年、ESD に関する研修を行っていたが、今回は公民館の枠を越えて幅広く、行政職員、市民団体、企業等でコーディネーターの役割を担っている人を対象に行った研修で、岡山 ESD 推進協議会が進める 2015～2019 年の ESD 推進事業計画に基づいた第 1 回目の ESD コーディネーター研修という新しい試みであったことから、研修の組み立てから実施まで、試行錯誤の連続ではあったが、志賀誠治氏をはじめとする経験豊富な講師陣の働きもあって、28 の ESD 学習講座企画書ができるなど、所定の成果をあげることができたことは評価できる。今回の研修で一つのベースとなるものができたので、次年度以降はこのベースを活かして、さらなる充実した研修が行われ、岡山地域の ESD の人材が多く育っていってくれることを期待したい。そのために、ESD-J として、できる範囲でのフォローアップや協力を今後も行っていきたい。

今回の研修では、岡山市は ESD-J から全国共通レベルの ESD コーディネーター研修教材の提供やレクチャー、ESD コーディネーターの認定などを期待されていたが、その点については、十分応えきれなかった点がある。これは、ESD-J としても、まだ全国共通レベルの教材や認定制度のようなものを確立しきれていない段階であったこともあり、現状で作成している資料や情報は提供したが、十分ではなかった。この点は、今後、可能な範囲でフォローアップしたい。そのためにも、今後も ESD-J 内に、ESD コーディネーター研修等を促進していく仕組みができる（継続される）ことが望まれる。

#### **4. ANNE 事業など国際ネットワークに関する事業**

##### **【目標】**

「アジアの農山漁村地域の ESD 推進に向けた人材育成」のモジュールの開発プロジェクトにおいて、各国の実情を踏まえた人材育成モジュールを完成させ、アジア各国でマイクロファイナンスを活用したエコ企業プロジェクト推進のツールとして、地域の NGO や開発協力機関等での活用を目指す。（トヨタ環境活動助成プログラム）

##### **【成果】**

- ・アジアの ESD 関連 NGO ネットワーク（Asian NGO Network on ESD: ANNE）メンバーにより、ESD-J がインド CEE と共同で作成した“生物多様性を踏まえた農山漁村開発における人材育成モジュール（案）”の適用性を検討し、コミュニティ・ファシリテーター用マニュアル（英語）を完成し、1500 部印刷した。また、日本語への翻訳を行った。
- ・インドで 2016 年 1 月に開催される CEE 主催の「SDGs の推進手段としての教育国際会議（Internatioanl Conference on Education as a Driver for SDGs: ESDGs）」に ANNE メンバーが参加するため、2015 年末までの予定であったトヨタプロジェクトの期間を 2 か月延長した。ESDGs 国際会議期間中に本プロジェクトの国際ワークショップを開催し、アジア各国の NGO および開発協力機関らとともに、開発したモジュール（案）の有効性を検討し、最終的に完成した「コミュニティ・ファシリテーター用マニュアル」にワークショップでの意見を反映した。
- ・マニュアルを ANNE メンバーに所定部数を配布することにより、各国における周知に努めた。

##### **【評価と展望】**

- ・何回も ANNE メンバーが集まり検討・議論することにより、最終的に質の高いコミュニティ・ファシリテーター用マニュアルを完成できたことは、アジア各国の ESD 関係 NGO との共同作業の成果として高く評価できる。

- ・完成したマニュアルを各国の ANNE メンバー（インド、インドネシア、日本、フィリピン、韓国）に配布したが、その成果の各国内での周知、活用戦略を検討することが重要。
- ・ANNE の次なる活動を企画することが必要。その際、ESD-J 主導のプロジェクトの検討だけでなく、他国の ANNE メンバー主導のプロジェクトの模索も重要。
- ・今後の発展のためには、ANNE 活動を含む ESD 関連国際協力推進グループの拡充・強化が望まれる。

## 5. 普及啓発、情報収集・提供

### 【目標】

ESD 推進に関する関係機関の情報発信については、「ESD センター」にて展開されていくことを想定し、ESD-J では、ESD-J の 12 年間の蓄積と、セカンドステージにおける ESD-J のあり方を ESD 関係者に発信していくことで、ESD の推進に寄与するとともに、新生 ESD-J のガバナンスを維持発展させることを目指す。

### 【事業内容】

- 1) ESD-J の web サイトのリニューアル（再掲）  
過去 12 年間に取組んできた事業の成果物、パンフレットや報告書、テキストなどを整理し、アーカイブとして公開した。
- 2) 会員メーリングリストの運営
- 3) ESD レポート 36 号の発行  
今年度一回の発行を予定していたが、ESD センターの設立の見通しが立つのが遅れたことやマンパワー不足などから、発行することができなかった。
- 4) 講師派遣  
エコ 1 グランプリの地域選考委員を一括して請け負い、各地の理事や会員に選考委員を依頼。今年度は 7 地域ブロックで協力を行った。
- 5) 書籍販売  
ESD-J はこれまで『テキストブック①基礎編』『②実践編』『③生物多様性編』『未来をつくり Book』を発行してきた。①は絶版、『③生物多様性』『未来をつくる Book』は ISBN コードを持っているが、『②実践編』のみ ISBN コードを持っていなかったため、みくに出版の協力で ISBN コードを取得し、ネットの書籍販売サービスなどを利用しての購入を可能とした。

### 【成果】

すでに評価事業の項でも触れられた通り、この年次ではほぼ 12 年レポートの作成に注力した。これまでの ESD-J、その前段にわたる活動の総括情報は、このあとの ESD の拡大、進展の際にあらためて参照されるにふさわしい内容となった。

### 【評価と展望】

ESD 活動支援センターの発足に伴い、いままで広く ESD を知っていただく・理解を深めていただくというテーマが普及啓発、情報収集・提供 PJ の大目標だったところ、ナショナルセンターとのすみわけをどのように行うのか、という点で大きな節目のタイミングを迎えている。政策提言集団としての周知や啓発はひきつづき非営利・市民活動団体として ESD-J 以外に担い手は考えられないが、一般への ESD 周知を私たち ESD-J としてどうとらえていくのか？次期の理事の皆様方、会員も含めて十分な検討のうえで、この大きな節目の先を見据える必要があるだろう。

### Ⅲ. 会議等

#### <総会>

通常総会 6月20日(土) みくに出版7F セミナールーム

#### <理事会>

第1回理事会 5月17日(日) 日能研西日暮里ビル 会議室

第2回理事会 9月26日(土) 日能研西日暮里ビル 会議室

第3回理事会 2月11日(祝) 日能研西日暮里ビル 会議室

### Ⅳ. 会員、理事、事務局等

#### <会員> ※( )内は2015年3月末の数

団体正会員 65 (72) 団体準会員 18 (20)

個人正会員 97 (103) 個人準会員 125 (142)

賛助会員 10 (11) 特別賛助会員 1 (1) 連携交流団体 5 (5)

#### <役員等>

代表理事 阿部治、重政子

副代表理事 池田満之

理事 池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、柴尾智子(2月末辞任)、  
壽賀一仁、杵本育生、鈴木克徳、関正雄(3月末辞任)、長岡素彦、  
竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森高一、森良、吉澤卓

監事 浅見哲、吉岡睦子

顧問 池田香代子、岡島成行、廣野良吉

#### \*役割

ESD 支援の仕組みづくりへの参画事業 主な担当理事：阿部治、重政子、村上千里

市民による ESD 推進の評価事業 主な担当理事：阿部治、新海洋子、村上千里

ESD コーディネーターの社会化 主な担当理事：壽賀一仁、森良、森高一

国際ネットワーク推進 主な担当理事：鈴木克徳

普及啓発・情報収集・提供 主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦、森高一

地域担当理事： 【北海道】池田誠 【東北】小金澤孝昭

【関東】森良 【北陸】鈴木克徳

【東海】新海洋子 【近畿】杵本育生

【中国】池田満之 【四国】竹内よし子

【九州】三隅佳子 【沖縄】大島順子

組織運営理事 阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

#### <事務局>

事務局長 ……村上千里(4月～9月：常勤、10月～3月 非常勤)

スタッフ ……伊藤通子、笹川貴吏子、宮崎裕子(9月末まで)(非常勤)  
渡辺五月(12月～)(常勤、ESDセンター勤務)